



ドイツからやってきた国際交流員(CIR)の
アナマリー・グンツェルさんが、ドイツの文
化や田川での生活などを紹介します。

●アナマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawacir.wordpress.com/>

スマホ、携帯電話は
こちらから



春の訪れを告げるドイツの花と動物

春が始まる日と言われている「春分の日」。ドイツにも春分の日があり、本年は日本と同じ、3月20日です。ドイツの冬は、寒さが厳しいことで知られていますが、この暦上の春の始まりの前にも、その訪れを告げる「春の特使」と呼ばれる花や動物があります。今回は、春を心待ちにするドイツ人が見つけるととても喜ぶ花と動物を紹介します。

まずは花です。1年で最も早く、1月から2月にかけて咲くスノードロップという花のほか、クロッカスやチューリップ、スイセンなどもよく知られています。中でも、チューリップとスイセンはイースター（復活祭）が開催される3月から4月の間に咲いているので、イースターの花となっています。

次に、動物の中で春の特使として最も知られているのは、シュバシコウ（ヨーロッパコウノトリ）です。シュバシコウは冬をアフリカで過ごした後、春になると繁殖の

ためにドイツに帰ってくるため、ドイツでは子孫繁栄の象徴ともされています。他にも、冬眠から目覚める、ヒキガエル・ハリネズミ・ハムスターなども春の特使とされています。

このように、多くの花や動物たちが、ドイツ人に寒さの厳しい冬の終わりや温かい春の雰囲気や命の美しさを感じさせてくれます。日本にも、もうすぐ春が訪れます。みなさんは、どんなときに春を感じますか。



▲スノードロップ

今日の言葉
フルーリング
Frühling (春)